

5 ICTを活用した「授業モデル」について

令和2年度末までで順次整備される1人1台端末環境を活用した授業実践が、令和3年4月から全ての公立学校ではじまります。こちらには、4月、5月ごろに実施される単元を中心とした、「授業モデル」をこちらに示しています。授業計画の参考にしてください。

○「授業モデル」の見方 本時案の中に、ICTの活用モデルを太字(青)で示しています。

〔中学校 1年 理科〕 単元名「植物の特徴と分類」

活用のポイント

○ 観察対象を撮影し、画像を拡大したり、並べて表示したりするなどの機能を使って

1 本時の目標

・植物の葉や根のようすから単子葉類と双子葉類それぞれの共通点に気づくことができる。

2 本時の流れ

一つの内容の中でも、ICTとノート等を使い分けている。

	学習活動	学習内容	ICTを利用した指導上の留意点
導入	○植物の発芽のようすを思い出す。 ○ 単子葉類と双子葉類の発芽のようすを見る。	○小学校で学習した植物の発芽のようすについて復習する。 ○ 単子葉類と双子葉類の葉と根のつくりの違いをNHK for Schoolで確認する。	○大型提示装置を用いてNHK for School「発芽のしかたで分類(2.00分)」の56秒までを見せる。
	学習課題 単子葉類と双子葉類とでは、葉や根のようすにどのような違いがあるだろうか。		
	○単子葉類と双子葉類の2種類の植物の葉を観察する。 ※班で様々な植物を観察する。 ○ 葉の画像を撮影する。 ・葉脈のようすをスケッチする。 ・葉脈の特徴を文章でまとめる。	○2種類の植物の葉の特徴の違いを見いだす。 ○ 葉脈のようすを生徒用端末で撮影する。 ○スケッチとまとめはワークシートに記入する。	○状況に応じて次のことをアドバイスする。 ・葉を光に透かして撮影 ・特徴がわかりやすい部分を拡大 ○個人で別々の植物を観察させる。

○ 内容

	学年	教科	単元名	活用のポイント(主な使い方)	ページ
小学校	1	国語	ひらがなのかきかた	・写真等の振り返りにおける活用 ・学習用アプリの活用	1 2
		生活	児童用たんまつがやってきた!	・使い方のルールのご指導 ・基本操作のご指導	1 3
	2	生活	町をたんけんしよう	・写真等を記録やまとめに活用	1 4
	3	社会	身近な地域や市区町村の様子	・資料を配信して提示、共有 ・児童の意見や考えの共有	1 5
	4	算数	角とその大きさ	・動画を前時の振り返りに活用 ・活動場面の写真による記録と共有	1 6
	5	理科	流れる水のはたらき 地面を流れる水	・動画による実験の記録 ・動画教材の活用	1 7
中学校	5.6	道徳	手品師	・資料の提示と他者の考えの共有	1 8
	6	外国語	Unit2:Welcome to Japan.	・発音や発表の録画等による振り返り	1 9
	1	数学	データの活用	・データ分析のためのアプリ等の活用	2 0
		理科	植物の特徴と分類	・写真による植物の詳細な観察	2 1
		保健体育	タッチラグビー	・動画による目標のイメージ化 ・プレーの動画を思考の材料に活用	2 2
	2	国語	豊かに想像する	・生徒の意見の交流や共有に活用	2 3
	3	社会(公民)	私たちと現代社会	・資料の配信による共有 ・生徒の意見や考えの交流や共有	2 4
技術家庭(技術)		材料と加工に関する技術	・アンケートフォームによる意見収集と提示 ・インターネットを活用した調べ学習	2 5	

[小学校 1 年 国語] 単元名 「ひらがなのかきかた」

活用のポイント

- 導入で前時に学習した内容を絵や写真を表示し、本時にスムーズにつなげる。
- ひらがなアプリ等を使い、点画の書き方や文字の形、筆順などを繰り返し確認する。
- 子どもたちが書いた文字を書画カメラ等で提示し、振り返りをする。

1 本時の目標

- ・平仮名の始筆と終筆（「止め」「払い」）の書き方を理解し、正しく書くことができる。

2 本時の流れ

	学習活動	学習内容	ICTを利用した指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○写真を見て、「もじをかくしせい」「えんぴつのもちかた」を思い出す。 ○「じをかくしせい」「えんぴつのもちかた」が示された写真を見て、文字を書く姿勢をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「もじをかくしせい」「えんぴつのもちかた」について復習する。 ○読みやすく整った文字を効率よく書くための姿勢や鉛筆の持ち方のポイントを思い出し、文字を書く姿勢をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型提示装置を用いて「文字を書く姿勢」「鉛筆の持ち方」を示した写真等を表示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習課題 「く」や「つ」のもじを、「とめ」や「はらい」にきをつけてかこう。 </div>			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○児童用端末を用いて、止め・払いをもつ「く」「つ」の文字をなぞる。 ○プリント等の「く」「つ」の文字を鉛筆でなぞったり、枠の中に書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童用端末を用いて、「とめ」「はらい」の書き方に気を付けて、「く」「つ」を指でなぞり、止め・払いの書き方を理解する。 ○「とめ」「はらい」の書き方に気を付けて、「く」「つ」を鉛筆で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童用端末にあるひらがなアプリ等を使い、止めや払い、文字の形に気を付けながら、文字を指でなぞらせる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で共有する。 ○振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ○「とめ」「はらい」の書き方を全体で共有する。 ○「とめ」「はらい」に注意して丁寧に文字を書けたかどうか振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書画カメラ、大型提示装置を用いて、丁寧に書かれている子どもが書いた文字を見せ、「とめ」「はらい」に注意して書かれていることを全体で確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【振り返り】 「く」の字は、ぴたっととめて かくことができた。 「つ」の字は、すうっとはらって かくことができた。 </div>			

[小学校1年 生活] 題材名 「児童用たんまつがやってきた！」

活用のポイント

- 児童用端末を扱うにあたって、ルールをしっかりと伝える。
- 児童と同じ画面を大型提示装置に映し、1つ1つの操作を丁寧に伝えていく。
- G Suite for Education のパスワードの取扱いについて十分に留意させる。

1 本時の目標

- ・タブレット端末の取扱とパスワード管理等のルールを正しく知ることができる。

2 本時の流れ

	学習活動	学習内容	ICTを利用した指導上の留意点
導入	○指導者が提示するスライドを見て、児童用端末を使った今後の勉強のイメージを知る。	○児童用端末でどのような勉強ができるのかイメージを膨らませる。	○後ろの席の児童にも見やすいようにスライドに文字はあまり使わない。
学習課題 児童用たんまつとお友達になって、大切にしよう			
展開	○児童用端末を1人ずつ手渡しする。(貸与式) ○児童用端末使用上のルールを大型提示装置に提示する。 ○G Suite for Educationの画面を提示し、「ログイン」させる。	○児童用端末は大切なものと意識させる。 ○使用上のルールを理解する。 ○大型提示装置に映った指導者の画面を見ながら各自で「ログイン」をする。	○1つ1つの動作を一緒にいき、確実に進めていく。
終末	○充電保管庫への片付け方を練習する。	○充電保管庫からの取り出しや片付け方を理解する。	○毎日行うことなので、各学校でルールを決めることが必要である。
【振り返り】 たんまつをつかうには、パスワードがひつようなんだね。 これからずっとたいせつにつかっいていこうとおもいました。			

〔小学校2年 生活〕 単元名「町をたんけんしよう」

活用のポイント

- 町たんけんの報告会のために、まとめたり、提示したりする資料として写真や動画を記録をする。

1 本時の目標

- ・町をたんけんして、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について詳しく調べよう。

2 本時の流れ

	学習活動	学習内容	ICTを利用した指導上の留意点
導入	○前時の活動を振り返る。	○安全やマナーについての約束を確認する。 ○役割分担を確認し、助け合っ て調べる。 ○探検する地域の確認をする。	○児童用端末に安全やマナーに ついての文書を送信し、確認 する。
学習課題 町をたんけんしよう。			
展開	○グループで町に出かける。 ○探検した場所や物、そこで生活 したり働いたりしている人 について詳しく調べる。(写真や 動画撮影、インタビューをする 等) ○帰る時間を確認し、安全に学校 に帰る。	○事前に学習した約束を守っ て行動する。 ○事前に準備した内容をもと に、インタビューする。 ・気になるところや地域の人の インタビューの様子を写 真に撮る。 ※標識や看板等、地域の施設の 様子等に注意を向ける。地 域の人との出会ったとき挨拶 をする。	○写真や動画に記録を残す。撮 影をしてもよいか確認する。 (GPS機能を用いれば、電 子マップ上とリンクできる。)
終末	○グループで今日の活動を、撮影 した写真をもとに振り返り、ど の写真を使用するか決め、指導 者用端末に保存する。	○安全やマナーを守って活動 できたか、確認する。 探検した内容の中で、お気に 入りの場所や紹介したい人 について話し合い、次時につ なげる。	○選んだデータを教師用端末に 保存する。
<p>【振り返り】</p> <p>○○やさんの話の中で、お客さんと話すことが次来てもらうことにつながるということがわかった。いつも見ている看板は、昔、町の人がくろうして作っていた。</p>			

[小学校3年 社会] 単元名 「身近な地域や市区町村の様子」

活用のポイント

- 資料の配信（指導者）や配信された資料の活用（児童）を行う。
- 児童が考えを提示する場面で活用をする。

1 本時の目標

- ・駅のまわりの様子について調べたことを発表したり、交通の広がりや駅付近の地図を確かめたりすることを通して、人々が駅を利用する理由を考えることができる。

2 本時の流れ

	学習活動	学習内容	ICTを利用した指導上の留意点
導入	○△△駅のまわりで調べたことを発表する。	○写真機能や動画機能で記録したことを再生し、内容を確認して発表する。	○全体発表は、大型提示装置を用い、グループで発表するときはタブレットで画像や動画を見せ合う。
学習課題 △△駅を利用する多くの人々はどのような目的で駅を利用しているのだろうか			
展開	○△△駅の付近の地図から、多くの人々が△△駅を利用する理由を考える。 ○理由を発表する。 ○人々が△△駅で乗り降りする理由をグループでまとめる。	○児童用端末に配信された△△駅の付近の地図に、△△駅を利用する人々に関係すると考えられる場所に丸を付ける。 ○丸の理由をノートに書く。 ○△△駅の付近の地図から多くの人が△△駅を利用する理由を、児童用端末と大型提示装置を使って発表する。 ○児童用端末に配信された△△駅の朝・昼・夜の乗降客数の表や駅で調査したことをもとに、人々が△△駅で乗り降りする理由を考える。	○個人の端末で学習作業を行わせる。 ○児童が丸をつけた地図を大型提示装置を用いて拡大し、効果的に発表する。 ○班が4人組なら、1人の児童用端末は記録用とする。 ○端末を使ってまとめるのが困難な場合は、ホワイトボードやノートを使用する。
終末	○全体で共有する。 ○振り返り	○人々が△△駅で乗り降りする理由を班で発表する。 ○△△駅を利用する多くの人々はどのような目的で駅を利用しているのだろうかという学習課題について考えをまとめる。	○大型提示装置を用いて各班がまとめた意見を見せ△△駅を利用する人は通学や通勤に使う人が多いことに気付かせる。
<p>【振り返り】 △△駅のまわりには、市役所、博物館、図書館、高校といった公共施設や多くの人々がはたらく場所がある。また、団地やマンションなど人が住む場所がたくさんあり、駅を通きんや通学に使う人が多いと考えられる。乗りおりする人が朝と夜に多いのは、通きんや通学が関係していると考えられる。</p>			

[小学校4年 算数] 単元名「角とその大きさ」

活用のポイント

- 導入での振り返りに、前時のポイントを撮影した動画を活用し、本時にスムーズにつなげる。
- 三角定規の組み合わせ方を写真で記録し、友だちと交流することで多様な考えに触れる。

1 本時の目標

- ・三角定規の角を組み合わせているいろいろな大きさの角をつくり、伝え合うことができる。

2 本時の流れ

	学習活動	学習内容	ICTを利用した指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○動画をみて、三角定規のそれぞれの角の大きさを思い出す。 ○1組の三角定規を組み合わせることができる角を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分度器の使い方、角の大きさの単位について復習する。 ○三角定規の角は並べたり、重ねたりできることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型提示装置を用いて分度器で角度を読み取る様子を見せ、三角定規のそれぞれの角の大きさを表示しておく。 ○並べるときは、1組の三角定規で角を作ること、重ねるときは1組の三角定規のどちらか一辺を重ねることを条件とすることを伝える。
	<p>学習課題 1組の三角定規を使って、いろいろな大きさの角をつくろう。</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○三角定規の組み合わせ方を考え、いろいろな大きさの角をつくる。 ○三角定規を組み合わせて作った、いろいろな大きさの角をグループで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えた三角定規の組み合わせ方を児童用端末で撮影する。 ○角の大きさを求めるための式や考え方はワークシートに記入する。 ○多様な三角定規の組み合わせ方を共有する。 ○角の大きさと求め方ごとに分類し表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○記録が容易であることを活かし、考える時間を確保することで多様な考え方をさせる。 ○児童用端末の画像とワークシートの式に注目させ、考え方の共通点を探させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で共有する。 ○振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ○角の大きさと求め方ごとに分類した表を全体で共有する。 ○角の大きさの求め方と三角定規によってできるいろいろな角の大きさについてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型提示装置を用いて各グループが分類した表を見せ、角の大きさの求め方によって、それぞれに共通点があることに気づかせる。
終末	<p>【振り返り】 長さや重さと同じように、角の大きさも、たしたり、ひいたりして求めることができる。</p>		

〔小学校5年 理科〕 単元名 「流れる水のはたらき」

「地面を流れる水」

活用のポイント

- 実験を録画しておくことで、後に映像を何度も再生しながら結果を確認する。
- 動画教材を活用することで、結果を明確に把握する。

1 本時の目標

- ・ 流れる水にはどんなはたらきがあるかを、実験動画を見て文章でまとめることができる。

2 本時の流れ

	学習活動	学習内容	ICTを利用した指導上の留意点
導入	○前時の実験の内容を振り返る。	○人工の水の流れをつかったモデル実験を児童用端末で撮影したことを確認する。	○大型提示装置を使用して児童全員が同じ動画を見る。
	学習課題 流れる水にはどんなはたらきがあるか見つけよう。		
展開	○個人で地面の変化を調べる。 ・ 流れの速さや水のにごり方、地面のけずられ方について ・ 土の積もり方について ○個人で気づいたことを班で共有しまとめる。	○個人の児童用端末で動画を見ながら気づいたことを書き出す。 ○どのようなところでどのような変化が見られるかをまとめさせる。	○繰り返し再生させたり、考えるポイントの部分を拡大させたりしながら個人でまとめさせる。 ○班が4人組なら、1人の端末は記録用とする。 ○端末を使ってまとめるのが困難な場合はホワイトボードやノートを使用する。
終末	○全体で共有する。 ○実験のまとめを確認する。 ○振り返りをする。	○班でまとめた地面の変化を全体で共有し、比較する。 ○流れる水による地面の変化の様子をNHK for Schoolで確認する。 ○流れる水にはどんなはたらきがあるかまとめる。	○大型提示装置を用いて各班のまとめを比較することで、共通点を確認する。 ○大型提示装置を用いてNHK for School「大地をけずる水(15.00分)の必要な部分を見せる。
	【振り返り】 流れる水には、地面をけずったり土を運んだり積もらせたりするはたらきがある。かたむきが急なところでは水の流れが速く、深くけずられ、ゆるやかなところでは土が積もった。また、曲がっているところの外側は流れが速く、地面がけずられた。		

[小学校5・6年 道徳] 主題名「明るく生きる (A正直、誠実)」

教材名「手品師」

活用のポイント

- 資料等を拡大等して提示することにより、児童の深い学びにつなげる。
- 児童が他者の考えを知ったり、教師が全員の考えを把握したりする場面で活用する。
- 児童の学習の過程や成果などの記録をファイルに蓄積する。

1 本時の目標

- ・相手や自分に誠実に生きることのよさに気づき、誠実に明るく生活していこうとする態度を育てる。

2 本時の流れ

	学習活動 (主な発問と予想される児童の反応)	ICTを利用した指導上の留意点
導入	1. 今日の学習について話す。	○事前アンケートの結果等があれば、提示する。
展開	<p>2. 教材を範読する。</p> <p>○手品師のしたことด้วยความ残念に思うところや素晴らしいと思うところはどこだろう。 (残念に思うところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年と約束をしたが、大劇場に出ようかと迷ったところ。(素晴らしいと思うところ) ・大劇場に出ることをきっぱり断ったところ。 <p>○手品師は迷いに迷っていましたが、どんなことを考えて迷っていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっと夢がかない、はなやかなステージで手品ができる。 ・暮らしが楽になる。 ・友人からの期待に応えたい。 ・約束を守りたい。 ・少年をがっかりさせたくない。 <p>3. 友人の誘いを断った手品師の思いについて考える。</p> <p>①自分の考えをもつ②他者の考えを知る③他者と話し合う</p> <p>◎あんなにも迷っていた手品師が、きっぱりと断ったのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年と約束したから。・約束したからには守りたいから。 ・大劇場で手品をしても少年のことが気になってしまうから。 ・自分の言ったことには嘘はつけないから。 <p>4. 翌日、たった一人のお客様である少年の前で手品を演じている手品師は、どんなことを思っただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年の笑顔が見られてよかった。 ・やはりここで手品をしてよかった。 ・悔いはない。 <p>5. 教材を通して考えたことを振り返って、自己を見つめる。</p> <p>○自分の心に誠実に行動できたことや、できなかったことについて、端末に入力する。</p>	<p>○発問場面等に合わせて、教材のイラスト、図表等を拡大提示する。</p> <p>○自分の考えをもたせ端末に入力させる。</p> <p>○全員の意見を把握・整理し、全体に共有する。</p> <p>○端末に入力したことを蓄積させる。</p> <p>○大型提示装置に全員の振り返りを提示する。</p>
終末	6. 児童の生活の様子や、外部の方の言葉等、補助教材(画像や映像等)を提示する。	

[小学校6年 外国語科] 単元名 Unit 2 Welcome to Japan.

活用のポイント

- 児童用端末を使用した個別の発音練習を行う。
- ペアで発表の練習を撮影し合ったり、モデルとなるなかまの発表練習の様子を見たりすることで、改善点を共有する。

1 本時の目標

- ・今年初めて日本に来た ALT に日本のことをよく知ってもらうために、日本の行事を分かりやすく紹介する工夫をしよう。

2 本時の流れ

	学習活動	学習内容	ICTを利用した指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○Small Talk をする。(ペア) × 2回 ○発表の評価規準を確認する。 ○「Let's listen and read」を聞き発音する。(全体) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアで自分のできることについてやり取りをする。 ○評価規準を確認し、発表の見通しをもつ。 ○モデル文を聞き発音や発表時の表現方法について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1回目の後、必要に応じて、デジタル教科書の音声を聞かせる。 ○評価規準を大型提示装置で示す。 ○デジタル教科書(教材)を使用し、「Let's listen and read」を聞かせる。(p. 34)
	学習課題 今年初めて日本に来た ALT に日本のことをよく知ってもらうために、日本の行事を分かりやすく紹介する工夫をしよう。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題の確認後、前時で作成した発表原稿を確認する。(個人/全体) ○発表の練習をする。(個人) <ul style="list-style-type: none"> ・発表原稿を読む。 ・児童用端末の写真提示のタイミングを確認する。 ○発表の練習(ペア) × 2回 <ul style="list-style-type: none"> ・発表を行う。 ・アドバイスをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表原稿を見ながら、発音や表現で分からないところがないか確認する。 ○本番のつもりで発表の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表に合わせて、児童用端末に取り込んでおいた写真を見せるタイミングの練習をする。 ○本番をイメージして発表の練習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・互いに発表の練習の姿を児童用端末で撮り合う。 ・児童用端末を見ながら互いの改善点を共有する。 ・アドバイスを受けて、修正しながら2回目の発表を行い撮影し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人または全体で児童から出た質問に答える。 ○大型提示装置で本時の学習課題や評価規準を示しておき、発表の目的や場面、状況を確認する。 ○児童が端末操作だけに夢中になり、相手へのアドバイスがおろそかにならないよう、しっかり発表を聞くよう指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手の発表に反応しながら、撮影をするよう指示する。 ・モデルとなる児童の発表をいくつか撮影しておく。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で共有する。(全体) ○振り返り(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○なかまの発表練習の様子を見て、自分の発表を振り返る。 ○振り返りシートを記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対する達成度を記入する。 ・ペアのアドバイスやなかまの発表練習の姿から、自分の変容したことやこれからしようと思うことについて記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型提示装置を用いて、モデルとなる児童の発表を見せて、良いところや自分も取り入れたいところ等を見つけさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【振り返り】 この時間の練習を通じて、発表のいろんな工夫を考えることができた。その一つは、You can eat takoyaki. の takoyaki のところを ALT の先生に伝わるようにもう少しゆっくり言うことである。</p> </div>

[中学校 1 年 数学] 単元名「データの活用」

活用のポイント

- 複雑な資料を整理し生徒の学習活動を支援し、深い学びにつなげる。

1 本時の目標

- ・ 収集したデータを分析し、そのデータの傾向を読みとりの確な判断ができる。

	学習活動	学習内容	ICTを利用した指導上の留意点
導入	○データが多数書かれた課題プリントを受け取り、課題の内容について理解する。		○大型提示装置を使い問題を説明する。
	学習課題（例） バスの所要時間のデータから、乗車するバスの時刻を決めよう。		
展開	○データの傾向を読みとり、課題を解決するために必要な分析方法を考え、自分自身の判断をワークシートに記入していく。 ・ 平均値 ・ ヒストグラム ・ 最頻値 等 ○ワークシートには、判断の根拠にした数値とともに記入する。 ○ワークシートを提出し、意見交流する。 ○他の生徒の意見等を参考にして、自分自身の判断を批判的に考察してワークシートに記入する。 ○自分自身の最終的な判断をワークシートに記入する。	○データを分析するため、表計算ソフトを利用して代表値を求めたり、ヒストグラムを作成したりする。 ○ヒストグラムの階級の幅を変えるなど、的確な判断ができるようにする。 ○グループで意見交流する。 ○記入したワークシートを教師用端末に提出する。	○バスの所要時間のデータの値を生徒用端末に送信する。 ○既習した代表値は表計算ソフトで求められることを紹介し大型提示装置で方法を紹介する。 ○グループのワークシートを生徒用端末で共有する。 ○授業支援ソフトで教師用端末に提出させて、全員の考え方を把握し、生徒にも提示する。
まとめ	○振り返りをして、提出する。	○判断をするにあたり、決め手となった事柄（代表値等）と、思考の経緯等を記入する。	○授業支援ソフトで教師用端末に提出し意見を集約しておくことで、本時以降のレポート作成に役立てる。
	【振り返り】判断するとき、中央値を利用したが平均値を利用するかどうかでも悩んだ。しかし、ヒストグラムを見ると3つのデータが大きく離れていて、平均値と最頻値が同じ階級になかったため、中央値を利用して判断した。		